

令和

7

年度

事業者番号

0430

事業所番号

043000

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	
A	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)

(2) 事業所及び事業内容

代 表 事 業 所 名	シズン時計マニュファクチャリング(株) 埼玉狭山工場	前年度における事業所数	1
代 表 事 業 所 所 在 地	市 区 町 村	狭山市	
	字 ・ 地 番	富士見二丁目15番1号	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産 業 分 類 名 (中 分 類)	32 その他の製造業		
分 類 番 号 (中 分 類)	32		
事 業 活 動 の 概 要	各種時計類及びその部品の製造 従業員数：144人		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計 画 期 間		2	年 度	～	6	年 度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準となる排出量		t-CO2	基準となる原単位	0.3138 t-CO2/m2
		令和1年度の原単位(床面積)を基準として、令和6年度末までに原単位を毎年1%ずつ改善していきます。				
	その他ガス					

(2) 第4計画期間の削減目標

計 画 期 間		7	年 度	～	11	年 度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準となる排出量		t-CO2	基準となる原単位	0.3138 t-CO2/m2
		令和6年度の原単位(床面積)を基準として、令和11年度末までに原単位を毎年1%ずつ改善していきます。				
	その他ガス					

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	シチズン時計マニュファクチャリング（株） 埼玉狭山工場	狭山市富士見二丁目15番 1 号
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本産業規格 A 列 4 番

3 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,423	1,474	1,303	992	1,085

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算（t-CO₂）

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂	基準	2,804	2,916	2,578	1,962	2,146
	前 年 度 比 （ % ）	—	4.0	-11.6	-23.9	9.4
	基準となる排出量に対する削減率（%）					
その他ガス	非エネルギー起源CO ₂					
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六 ぶ っ 化 い お う					
	三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計		2,804	2,916	2,578	1,962	2,146

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）

CO₂換算（t-CO₂/指標）

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	0.3138	0.3116	0.3240	0.2864	0.2180	0.2384
	前 年 度 比 （ % ）	—	4.0	-11.6	-23.9	9.4
	基準となる原単位に対する削減率（%）	0.7	-3.3	8.7	30.5	24.0
活 動 規 模 の 指 標	単 位	9,000.00	9,000.00	9,000.00	9,000.00	9,000.00
床面積	m2					

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	2020年度は昨年度と比較し、生産量が36%減、売り上げが8%減となった。生産量減に伴い設備稼働時間も減少の為、CO2排出量の減少となった。
令和3年度 (2021年度)	2021年度は、昨年と比較し、生産数量が約29%増加した。それに伴い、主に電力使用量が約4%増加し、CO2排出量の増加となった。
令和4年度 (2022年度)	2022年度は、昨年と比較し生産数量が約27%減少。その為、電力使用量及び生産で使用する灯油の使用量も減少致しました。工場内LED化を進め、照明関係の省エネを進めています。
令和5年度 (2023年度)	2023年度生産は、2022年後半より減少傾向が継続し、電力使用量及び生産で使用する灯油の使用量も減少しました。工場内LED化を進め、その他空調温度の管理による節電に取り組んでいます。
令和6年度 (2024年度)	2024年度生産は、2023年度より増加傾向のため、電力使用量が増加。前年からの施策：工場内LED化を進め、その他空調温度の管理による節電に継続的に取り組んでいます。

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	インバーターコンプレッサー導入	R1以前	R1以前	50.0
2	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサーエアールール対策	R1以前	R1以前	11.0
3	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	高力率タイプ高圧変圧器の導入	R1以前	R1以前	4.0
4	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	H28年度コンプレッサーエアールール対策継続	R1以前	R1以前	11.0
5	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	自動販売機の適正化(2台削減)	R1以前	R1以前	5.0
6	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	インバーターコンプレッサー2台導入	R1以前	R1以前	34.0
7	360700	ポンプ、ファン、ブロワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	インバーターコンプレッサー1台導入	R1以前	R1以前	21.0
8	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	休日稼働空調機の停止による電力削減	R2	R2	57.0
9	490200	その他	49_その他の削減対策	フォークリフトガソリン式からバッテリー式の導入	R2	R2	1.0
10	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	F2階 事務室LED修繕	R4	R4	3.4
11	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	A工場LED修繕	R4	R4	7.8
12	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	J工場、K工場、総務居室LED修繕	R5	R5	32.0
13	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	L工場1F廃棄物置き場化による空調ストップ	R5	R5	8.0
14	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	F工場通路、I工場1F LED修繕	R6	R6	1.4
15	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	F工場1F南側、空調ストップ	R6	R6	22.0

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

(※希望者のみ記載)

自由記述欄